最新技術を実務で役立てるヒントに

インフラ維持管理最前線の知見深める

コンクリート構造物フォーラム2026開催―JCMA

（一社）コンクリートメンテナンス協会（JCMA、徳納剛会長）は14日、コンクリート構造物の補修・補強に関するフォーラム2026を新潟市の朱鷺メッセで開催。会員企業の技術者など約230名が参加し、インフラ長寿命化に役立つ最新の維持管理技術について知見を深めた。

今回のフォーラムのテーマは「インフラ長寿命化を支える維持管理技術の最前線」。冒頭にあいさつした徳納会長は、コンクリート構造物の維持管理は喫緊の課題となっている一方、現場は技術者不足や維持管理コストの増大といった厳しい現実に直面しており、迅速かつ効率的な対応が強く求められていると指摘。その上で「補修技術や劣化診断技術は目覚ましい進歩を遂げている一方で、実務への適用が十分に進んでいないという現状も、私たちが乗り越えるべき課題」として、フォーラムが参加者が実務に役立つヒントを得られる機会となることに期待感を表した。


徳納会長

講演では、北陸地方整備局道路部道路保全企画官の吉田健一氏が国土交通行政の最新動向について説明。国管理道路の日常管理や老朽化対策のほか、事例として妙高大橋の上部工撤去や、道路橋における塩害対策の内容を紹介した。

このほか、今回のフォーラムで行われた講演内容と講師は以下の通り（敬称略）。

◆NEXCO東日本新潟支社における維持管理の取り組み＝古谷嘉康（東日本高速道路）

◆塩害を受けたコンクリート構造物の耐荷性能＝丸山久一（長岡技術科学大学名誉教授）

◆亜硝酸リチウムを活用したコンクリート補修技術の最前線＝江良和徳（JCMA技術委員長）

◆インフラ長寿命化に貢献する非破壊検査・点検技術＝真鍋英規（CORE技術研究所）


フォーラムのようす

働きやすい環境づくりと人材育成をアピール

週休2日定着やキャリア支援掲示

市内企業情報交換会で意見交換―山﨑組

㈱山﨑組（長岡市、高田守代表取締役社長）は、アオーレ長岡で開催された「大学・専門学校と市内企業との情報交換会」に参加した＝写真。同社は新潟職業能力開発短期大学校の担当者と意見交換を行い、山﨑卓郎取締役総務部長は現場での人材育成や働きやすい環境づくりを推進し、長期にわたり活躍できる社員の確保に向けアピールした。

同社の新卒採用・インターンシップの実績について「昨年は3名、今年は1名の計4名が入社した」と説明。採用活動の早期化が進む現状に触れ「同校では夏休み前にインターンシップを実施し、2年生の早期段階で現場を体験できるため、ミスマッチ解消につながっている」と評価した。



労働環境の改善に向けては、週休2日制の定着事例や1級施工管理技士の取得を目指す育成体制を紹介。また、「月8日以上の休日取得が定着し、以前に比べ休みが取りやすく働きやすい環境が整備されている」と実態を語った。

部門ごとの施工環境の違いに触れつつ、作業員から技術者へのキャリアアッププランを提示し、「本人の意欲を尊重しながら柔軟なキャリア形成を支援していく」との方針を示した。

一方で、資格取得後の離職や採用の難しさといった課題についても触れ「定着率向上に向け、今後も育成と労働環境の双方から現場改革を進めたい」と意欲を示した。

降雪期も安全衛生管理の徹底を

安全管理優良受注者の事例を紹介

高田河川国道事務所工事安全対策協議会

高田河川国道事務所工事安全対策協議会（会長＝尾崎誠高田河川国道事務所長）はこのほど、糸魚川市のマリーンドリーム能生で「建設労働災害防止大会」を開催、同事務所発注工事の現場関係者約90名が出席し、建設工事現場における労働災害の撲滅を誓った。

開会あいさつで尾崎会長は「労働災害や公衆災害などは、1件の事故が尊い命や健康を損なうだけではなく、業界全体の信頼感や魅力の低下につながりかねない」とした上で「施工中の工事も最盛期を迎え、これから迎える降雪期は気象状況が一段と厳しくなるが、これまで以上に安全衛生管理を徹底して頂きたい」と呼びかけた。

大会では、北陸地方整備局安全管理優良受注者表彰を受賞した創和ジャステック建設と田中産業の安全管理事例を紹介。また、R7・8上沼道岡木地区道路改良工事を担当する相村建設による「安全十訓」の唱和や、令和7・8・9年度歌地区災害復旧その1工事を担当する谷村建設による安全宣言も行われた。


大会のようす

女性の健康課題について学ぶ

高舘組と北陸保全工業が事例紹介

誰もが活躍できる職場づくりへ―県女性財団

（公財）新潟県女性財団（畠山典子理事長）は16日、「働く女性の健康課題／100年続く企業になるために」を新潟市の新潟ユニゾンプラザで開催した＝写真。

企業などが女性特有の健康課題について理解を深め、職場環境の整備や健康保持・増進およびメンタルヘルス対策の推進を目標とし、会場11名、WEB42名の計53名が参加。

セミナーでは、女性の健康経営に取り組む企業として、㈱高舘組と北陸保全工業㈱が自社の事例を発表。このうち高舘組は、衛生管理者の資格を持つ女性管理職を中心に、健康促進プロジェクトチームが女性ならではの目線や感性など、多角的な方面から健康課題に取り組んでいると説明。高舘陽子ソリューション事業部長は「多様な性や多様な価値観を大切にしながら、包括的な目線で健康課題に取り組みたい」と今後の展望を語った。

このほか、NA&Well―Being㈱の井上智玄代表取締役が講師として、県内企業における健康経営の現状および女性の健康支援を中心とした具体的な取組の進め方などを講演した。

さらに、トークセッションでは参加者からの質問に講師および発表企業2社が回答。これから健康課題に努める企業に対し高舘部長は「継続することは難しい。まずは軽い気持ちでやれることからやってみると良い」と呼びかけた。



新潟県の価格動向・9品目で指数下降

主要建設資材受給・価格動向調査

在庫状況は全骨材で普通・豊富に転じる―国交省

国土交通省が9月1～5日に行った主要建設資材受給・価格動向調査によると、本県では「価格動向」において、生コンクリートのみが上昇となった。

一方で、9つの品目で指数が下降し、3つの品目で前回調査と変わらない結果となった。

「需給動向」をみると、石油のみ均衡を維持。残る12品目は均衡から下降して“やや緩和”側にシフトした。

「在庫状況」は、全ての骨材で指数が下降して、普通または豊富へと移行した。

さらに、異形棒鋼は普通を維持し、H形鋼は在庫が復活した。

全国はH形鋼の価格動向でやや上昇

全国における建設資材の動向をみると、「価格動向」では調査対象資材において“横ばい”、「需給動向」は“均衡”、「在庫状況」は“普通”となった。

新潟県・需給動向

資材名称・規格		価格動向			需給動向			在庫状況		
		前回調査 8／1～5	今回調査 9／1～5	差	前回調査 8／1～5	今回調査 9／1～5	差	前回調査 8／1～5	今回調査 9／1～5	差
セメント	バラ物	3.2	3.2	0.0	3.1	2.8	▲0.3	—	—	—
生コンクリート		3.2	3.3	0.1	3.0	2.6	▲0.4	—	—	—
骨材	砂	3.2	3.2	0.0	3.0	2.7	▲0.3	3.0	1.8	▲1.2
	砂利	3.3	3.2	▲0.1	3.0	2.6	▲0.4	3.0	1.8	▲1.2
	砕石	3.3	3.2	▲0.1	2.9	2.9	0.0	3.0	2.4	▲0.6
	再生砕石	3.2	3.2	0.0	2.9	2.9	0.0	3.0	2.2	▲0.8
アスファルト合材	新材	3.2	3.1	▲0.1	2.9	2.6	▲0.3	—	—	—
	再生材	3.2	3.1	▲0.1	2.9	2.6	▲0.3	—	—	—
異形棒鋼	SD295A D16	3.6	3.2	▲0.4	2.9	2.8	▲0.1	2.0	2.0	0.0
H形鋼	広幅200×100×5.5×8㎜	3.5	3.4	▲0.1	2.8	2.7	▲0.1	—	2.0	—
木材	製材	3.3	3.1	▲0.2	3.0	2.9	▲0.1	—	—	—
	型枠用合板	3.4	3.1	▲0.3	3.0	2.9	▲0.1	—	—	—
石油	軽油：1、2号	3.4	3.2	▲0.2	3.0	3.0	0.0	—	—	—

現在の価格動向を、1（下落）、2（やや下落）、3（横ばい）、4（やや上昇）、5（上昇）として、各モニターからの回答を集計し、その平均により算出。
現在の需給動向を、1（緩和）、2（やや緩和）、3（均衡）、4（ややひっ迫）、5（ひっ迫）として、各モニターからの回答を集計し、その平均により算出。
現在の在庫状況を、1（豊富）、2（普通）、3（やや品不足）、4（品不足）として、各モニターからの回答を集計し、その平均により算出。